

人から受けた御恩はすぐ忘れ  
人からされた嫌なことは死んでも覚えている

仏説無量寿経に、

「人は互いに敬い、愛し、施しあわなければならないのに、僅かな利害のことで、互いに憎しみ争うことのみである。しかもその争う心が結んで解けず、後の世に益々激しく、大きな怨みとなることを知らない。

この世の争いは、互いに損ない合うに至っても、すぐに破滅に至ることは少ないが、その毒を含み、怒りを蓄え、憤りを心に結んで刻みつけ、生を変え、死を変えて、互いに報復しあうようになる。」

とあります。言いかえると、御恩はすぐ忘れませんが、自分がした人助けなどの良いことは死ぬまで自慢して言い続けます。反対に自分がした悪いことや人を傷つけたことはすぐに忘れます。それを迷いの生き方といいます。

絶対真理の領域は真反対です。悪いこと、罪を許し、良いことを褒め称え、仏陀が救った相手に恩着せがましく救ってやったとはいいません。

阿弥陀仏の救いとは、迷いの生き方しか知らない私を、仏陀とさせて、生き方を転換させるのです。仏陀として新しい生き方をこの世で生きていけるのです。それを**白蓮華(仏陀)**と親鸞聖人は言われています。合掌